令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　679

事務事業名称		ホームページ等活用事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1997(H9)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	万全なセキュリティ対策とアクセス集中にも耐えうる通信体制が構築され、市ホームページや市公式SNSを閲覧することで緊急情報や市政情報をリアルタイムに収集できる状態。						
	対象者(受益者)	市のホームページにおいて情報を収集できる人。(令和6年度実績/3,341,540人)						
	現状・課題	広報紙の発行は月に1回であり、最新情報をリアルタイムでは取得できない。また、ページ数にも限りがあるため詳しい情報を知ることが困難。						
	事業の概要	市政情報全般を随時更新して提供。トップページでは緊急情報や重要な市政ニュース、新着情報、イベント情報な どを掲載するとともにバナーを活用して情報の入り口を掲載。市公式SNSを用いて幅広く情報を発信。						
	年間の主な事務	・市公式SNS等での情報発信(通年) ・市HP上での情報発信(通年)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.90人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,919	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		6,919	—	—	—		
	物件費計		5,597	—	—	—	5,691	98.3%
歳出計			12,516	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		693	—	—	—	692	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			693	—	—	—	692	
一般財源(物件費充当分のみ)			4,904	—	—	—	4,999	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 各課への情報発信に係る研修	回	1 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 広報プロモーション課からの市公式SNS発信件数（各課からの依頼も含む）	件	1,104 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：ホームページにて随時市政情報等を発信する。

指標：新規に作成または更新されたホームページ数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,800	2,000	2,200	2,400	件
実績	1,889	―	―	―	件

算出方法：当該年度に新規作成または更新されたホームページの数

ロジックモデル

アウトプット②

説明：市SNSにて情報を受信できる。

指標：LINEターゲットリーチ数及びX・FBフォロワー数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	98,000	98,900	99,800	100,700	人
実績	96,878	―	―	―	人

算出方法：LINEターゲットリーチ数＋XのフォロワーW数＋FBフォロワー数
※LINEターゲットリーチ数・・・ブロック数やアカウント削除分などを除いた実際に配信が届くお友達の数

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：市ホームページや市公式SNSを閲覧することで緊急情報や市政情報をリアルタイムに収集できる。

指標：市ホームページの年間ユーザー数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3,100,000	3,400,000	3,700,000	4,000,000	人
実績	3,341,540	―	―	―	人

算出方法：当該年度にサイトを利用したユーザ数
※Web解析ツールのアクティブユーザ数で算出

アウトカム②

説明：市ホームページや市公式SNSを閲覧することで緊急情報や市政情報をリアルタイムに収集できる。

指標：市ホームページの年間ユーザー数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3,100,000	3,400,000	3,700,000	4,000,000	人
実績	3,341,540	―	―	―	人

算出方法：当該年度にサイトを利用したユーザ数
※Web解析ツールのアクティブユーザ数で算出

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市ホームページの適切な更新や作成、SNS発信による適切な誘導により、市HPの年間ユーザ数の増加

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	庁内各課に対して情報発信に係る研修を実施したこと、また、各課からの依頼に基づき市公式SNSで速やかかつ適切に情報を発信したことにより、ホームページの新規作成や更新回数は目標を達成し、各SNSのフォロワー数等も目標達成率約99%で概ね想定通りであった。この結果、市ホームページへの年間ユーザ数の目標達成率は約108%であった。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R7年度取組方針	広報紙では伝えきれない情報の発信媒体としてホームページは重要なツールであり、わかりやすいページ構成や見出しの設定などの工夫や思考が必要である。また、ホームページへの誘導を担う各SNSの情報発信は簡潔でわかりやすい情報発信が必要である。これらのことから、市民等が知りたい情報にたどり着け、また伝わるような情報発信が行えるように、各課への研修等を通じて引き続き改善を進める。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　680

事務事業名称		機関紙コンクール等事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1976(S51)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	自治会やPTA、サークルの機関紙の内容が充実し、作成者の広報力と満足度が向上するような広報スキルを学ぶ機会、各団体などと情報交換、発表する場がある状態。						
	対象者(受益者)	自治会、PTA、サークル団体の広報担当者として機関紙づくりをしている人(広報所管部署の職員)。						
	現状・課題	紙媒体での広報紙が減少していく中、地域媒体で広報担当になる人の多くは、紙面作りのノウハウがなく、スキルを学び、成果物に関して客観的な評価を得る機会がない。						
	事業の概要	①機関紙作りのノウハウをまとめたテキストを市ホームページ上で公開するとともに要望に応じて出前講座を開催②日頃の機関紙づくりの成果発表の場としてコンクールを実施。12月に作品を募集し、1月に審査を実施(審査員は枚方記者クラブ記者や地域情報誌発行者など)。2月に表彰式と審査員によるミニ講座、応募作品の展示会を開催。						
	年間の主な事務	・コンクールの開催周知(校区コミュニティ協議会や市内小中学校PTA協議会へメール、広報ひらかた・市公式SNS発信) ・審査会実施(審査員の選定・依頼、入賞作品の決定、審査員謝金の支払い、参加団体のアンケートまとめ) ・審査事務(応募作品の職員審査と審査会での審査) ・表彰式・ミニ講座の開催(参加賞や受賞団体への盾などの発注、ミニ講座講師依頼)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.25人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,922	—	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	—	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	—	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	—	—	—		
歳出 人件費計	1,922	—	—	—		
歳出 物件費計	91	—	—	—	130	70.0%
歳出計	2,013	—	—	—		
歳入 国庫支出金	0	—	—	—	0	
歳入 府支出金	0	—	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0	
歳入 市債	0	—	—	—	0	
歳入 その他	0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	91	—	—	—	130	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 機関紙コンクールの周知回数	回	3 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 機関紙コンクールの開催回数	回	1 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 自治会やPTA、サークルの広報担当者がコンクールに興味を持ち、参加する。

指標: コンクール参加団体数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	20	20	20	20	団体
実績	23	ー	ー	ー	団体

算出方法: コンクール参加団体数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 自治会やPTA、サークルの機関紙の内容が充実し、作成者の広報力と満足度が向上出来る。

指標: コンクール参加者へのアンケートで「参加して大変良かった」「良かった」と答えた人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	100	ー	ー	ー	%

算出方法: コンクール参加者へのアンケートで「参加して大変良かった」「良かった」と答えた人の割合

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

自治会やPTA、サークルの機関紙作りにおいて高齢化が進む中、若年層含め、コンクールへの参加団体が増え、市内で機関紙作りが活発化する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度から、これまで講習会の事前に6月に実施してきた「機関紙づくり講習会」については、参加団体の減少への対応や利便性の向上を図るため、いつでも閲覧でき学べるように講習会で使用してきたテキストを市ホームページで公開するとともに、講習会のように職員から直接講義を希望する団体には出前講座を実施して、市民活動の支援を行った。 また、コンクールはコミュニティ・自治会部門、PTA部門、サークル・同好会部門と3部門で募集していたが、応募数の偏りを改善するためコミュニティ・自治会部門とサークル・PTA部門と2部門に再編成した。また部門ごとの賞の数を3つから1つに変更するとともに、新聞記者などによる審査で厳選して入賞団体を決定することで、受賞の価値を高めて参加団体のモチベーション向上を図った。これにより、参加者アンケートでは「参加して大変良かった」または「良かった」と回答した割合が100%となり、ニーズに応えたものとなった。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	令和6年度に開催手法を見直したことから、令和7年度も同様の形式で実施することとするが、コンクールや表彰式のコンパクト化などを含め、参加団体の声なども踏まえながら、引き続きリニューアルについても検討していく。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	見直し	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　681

事務事業名称		広報ひらかた発行事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1951(S26)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	特集記事やお知らせ面などで構成される市の情報をまとめた「広報ひらかた」を毎月1回全戸配布し、全ての市民(在住外国人を含む)や市内事業者が手に取り読むことで、インターネット環境など各人の状況を問わず、市に関する情報へ定期的かつ確実にアクセスし、必要な情報を容易に入手することができる状態。						
	対象者(受益者)	市民全員(在住外国人を含む約40万人)/市内の事業者(約1万事業所:令和3年経済センサス活動調査)						
	現状・課題	インターネット環境などの各人の状況に関わらず、市民全員が住んでいるまちの情報に定期的かつ確実にアクセスできる手段が必要/状況に関わらず、市内事業者がまちの情報に定期的かつ確実にアクセスできる手段が必要						
	事業の概要	A4判の広報紙(48ページを年12回)を月1回発行して全戸配布する。内容はテーマを持って掘り下げた特集、市の主な取り組みを掲載する市政ニュース、対象者やジャンルごとに分類したイベントなどお知らせのほか、市に愛着を持てる読み物のコーナーなどを掲載。また、重要課題を分かりやすく情報提供するため、4ページの臨時特集号を必要に応じて年度に1回発行。加えて、視覚障害者向けに点字録音版の発行や、アプリの活用により広報紙の多言語対応を行う。						
	年間の主な事務	・広報紙作成のための企画検討、取材、出稿原稿作成、校正、印刷、配布業務(毎月) ・アプリ用にデータを加工し多言語対応発信(毎月) ・点字録音版の発行(毎月)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	3.77人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.05人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	28,984	—	—	—		
		会計年度任用職員	89	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		29,073	—	—	—		
	物件費計		98,658	—	—	—	100,750	97.9%
歳出計			127,731	—	—	—		
歳入	国庫支出金		2,951	—	—	—	5,565	
	府支出金		1,475	—	—	—	2,818	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		9,247	—	—	—	9,246	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			13,673	—	—	—	17,629	
一般財源(物件費充当分のみ)			84,985	—	—	—	83,121	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 広報ひらかたを発行する。	回	12 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 広報ひらかたを配布する。	部	2,281,723 部	ー 部	ー 部	ー 部

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 市民・事業者が広報ひらかたを手に取り読むことで、住んでいるまちの情報を定期的かつ確実に得ることができる

指標: スマホアンケートで広報ひらかたを読んでいる人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	97.9	ー	ー	ー	%
算出方法	100ー(スマホアンケートで広報ひらかたを「読まない」と回答した人の割合)				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市民が住んでいるまちの情報を読みやすい紙面で情報を入手することができる

指標: スマホアンケートで広報ひらかたを「とても読みやすい」「読みやすい」と回答した人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	92.6	ー	ー	ー	%
算出方法	スマホアンケートで「とても読みやすい」「読みやすい」と回答した人数の割合				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

全ての市民・事業者「広報ひらかた」を手に取り読み、容易に分かりやすく情報を入手できる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	広報ひらかたの核である「特集記事」として、9月号で市駅前にオープンした行政サービスフロアなどをさまざまな視点から取り上げ、市民の関心の高い枚方市駅周辺再整備をテーマとして掲載した。また、大阪・関西万博をキーワードとして、市の魅力発信を行う独自の取り組み「ひらかた万博」や万博開会式のコンセプトに影響を与え、長きにわたり「未来」「科学」「社会」に挑戦してきた宇宙飛行士の毛利衛さんと市長による新春対談についても掲載した。そのほか令和6年4月にリニューアルオープンした地域活性化支援センター「ひらっく」や開院10周年を迎えた市立ひらかた病院など、市の情報をタイムリーに特集記事として発信。令和6年11月号では、高知県四万十市と友好都市提携50周年を記念して、お互いの広報紙面を交換し市の魅力をPRするなど、読者が読み物としても楽しめるよう魅力ある紙面づくりに取り組んだことにより、スマホアンケートで「とても読みやすい」「読みやすい」との回答の割合が目標を超える92.6%となった。さらに市として強力に情報発信する「子育て・教育」に関する紙面企画「だから、枚方」の掲載も継続して行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き市が力を入れる施策や市の魅力を紹介する紙面づくりを行うとともに、市民生活に直結する重要なお知らせを最優先に紙面構成に取り組む。より効果的・効率的な紙面とするため、レイアウトや各コーナーの見直しも検討する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　682

事務事業名称		広報活動及び報道機関対応事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1960(S35)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	新聞などのマスメディアへの掲載を通じて広く市の取り組み等が市民等に伝わるよう積極的なプレスリリースや報道対応を行っている状態。						
	対象者(受益者)	新聞やテレビなどのマスメディアから情報を得る人:約1億人(中学生以上の人口)						
	現状・課題	特徴がある、あるいは話題となっている市の取り組みを特に知りたいが、広報紙は様々なお知らせや啓発情報なども多く掲載されていてよくわからない。						
	事業の概要	①定例記者会見(市長など市幹部が3月定例議会前の議案説明を中心に市政をPR。年1回実施)②資料提供(説明までは必要のない市政 情報を文書で提供)③各課に配置した広報担当職員を中心に、広報意識を高めて全庁的な情報発信力の強化を図る。						
	年間の主な事務	・定例記者会見の実施(例年3月定例月議会前) ・特徴的や話題性のある市政情報をプレスリリース ・各課の広報担当者を対象とした情報発信研修を実施						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.20人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,226	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		9,226	—	—	—		
	物件費計		2,874	—	—	—	4,161	69.1%
歳出計			12,100	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,874	—	—	—	4,161	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 定例記者会見の実施	回	1 回	ー 回	ー 回	ー 回
② プレスリリースの件数	件	114 件	ー 件	ー 件	ー 件
③ 情報発信研修の実施	回	1 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明: 記者会見の内容をテレビや新聞で取り上げられる

指標: テレビや新聞で取り上げられた件数(延べ)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6	6	6	6	件
実績	2	―	―	―	件

算出方法: テレビや新聞で取り上げられた件数(延べ)

ロジックモデル

アウトプット②

説明: プレスリリースの内容をテレビや新聞で取り上げられる

指標: プレスリリースがメディアに取り上げられた件数(延べ)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	件
実績	81	―	―	―	件

算出方法: テレビ・新聞で取り上げられた数

ロジックモデル

アウトプット③

説明: 全ての部署が参加している

指標: 全部署に対して参加部署の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	85	―	―	―	%

算出方法: 参加部署数/全部署数 ×100

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市政に関する次年度の主な取り組みなどを市民が知ることができる。

指標: スマホアンケートでメディア等で枚方市関連の記事を見たことがあると答えた人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	70	70	70	%
実績	61	―	―	―	%

算出方法: 枚方市関連の記事を見たことがあると答えた人/スマホアンケート

アウトカム②

説明: 広く市の取り組み等が市民等に伝わる。

指標: スマホアンケートでメディア等で枚方市関連の記事を見たことがあると答えた人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	70	70	70	%
実績	61	―	―	―	%

算出方法: 枚方市関連の記事を見たことがあると答えた人/スマホアンケート

アウトカム③

説明: 情報発信研修の受講者が研修内容を理解している

指標: 研修参加アンケートによる研修満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	89	―	―	―	%

算出方法: 研修後に実施するアンケートでの回答

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

職員が情報発信の重要性を認識し、新聞やマスメディアへの掲載を通じて市民に伝わるプレスリリースや報道対応を行っている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方記者クラブをはじめとする報道機関に対して、記者会見・プレスリリースなどで適切なタイミングを図って情報を提供し、メディアに取り上げられた件数は81件となった。情報発信施策推進委員会の取り組みとして、広報プロモーション課の職員による枚方市情報発信ガイドラインを使った研修と動画配信事業者を講師に迎えた「SNS活用セミナー」を実施した。通知の作成など日々の業務も情報発信となり「伝わる」ことが大切であることや動画の有効性などを講義し全庁的な情報発信力の強化を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R7年度 取組方針	情報発信施策推進委員会の取り組みとして、情報発信ガイドラインを使った研修と動画配信事業者を講師とした「動画」に関する研修を実施し、情報発信力の強化に向けた取り組みを進める。また、庁内ヨコグシで広報プロモーション課と他部署が連携することで、積極的な市の施策をPRする取り組みを進める。 全庁的な情報発信力の強化によって、メディアへ取り上げられる件数の増加を図り、市の魅力が広く伝わることを目指す。	R7年度 方向性	**現状維持**

参考					
方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　683

事務事業名称		市勢要覧発行事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	枚方市のことをよく知らない人に対して市の施策や魅力が簡潔に伝わり、本市に興味や関心を持つ状態。						
	対象者(受益者)	枚方市のことをよく知らない市外の人・外国人/引っ越しを考えている人または新しく転入してきた人(約1億2,300万人)						
	現状・課題	枚方市の概要について調べることが困難なため、簡潔に知る方法がほしい。						
	事業の概要	平成28年3月に、主に市外の人に枚方市の魅力が伝わる内容を目指して全面改訂し、日本語版、英語版、中国語版、韓国・朝鮮語版を作成。その後、約4年に1回全面改訂を行い、該当年度以外は在庫に応じて増刷を行っている。 (次回、令和10年度全面改訂予定)						
	年間の主な事務	・4年に1回、全面改訂のための取材や記事の作成作業(例年8月～3月頃) ※該当年度以外は在庫の管理(必要に応じて増刷対応)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.10人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	769	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		769	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			769	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 日本語版、および外国語版の市勢要覧のあり方の検討。発行する場合は改訂を行い、発行する(4年に1回)	冊	0 冊	ー 冊	ー 冊	ー 冊
② 改訂年度にあたらない3年は在庫数に応じて増刷を行う	冊	6,000 冊	ー 冊	ー 冊	ー 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 市外の人、および市内外の外国人・新たな転入者に市の情報を提供。

指標: 市勢要覧配布部数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	9,000	9,000	9,000	9,000	冊
実績	5,902	—	—	—	冊
算出方法	市勢要覧配布部数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市の存在を知り、市勢要覧を手に取り読む。

指標: スマホアンケートの「市勢要覧について」での回答全体から「読んだことがない」と答えた人を引いた数の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	50	55	60	%
実績	49.1	0	—	—	%
算出方法	(全体ー「読んだことがない」と答えた人数)/スマホアンケート回答者数×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

枚方市のことをよく知らない人に対して市の施策や魅力が簡潔に伝わり、本市に興味や関心を持つ機会の増加。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和5年度に全面改訂し、令和6年度は市内外のイベントなど多様な機会をとらえて来場者等に配布し、市のPRに活用した。また、令和6年12月には日本語版の改訂を行い、6,000冊増刷した。 市勢要覧を手に取り読んでもらった人の数は目標値に対する指標の達成度が約109%であり、概ね想定通りであった。ただし、配布数については目標値に届かなかった。日本語版は目標値の約84%に対し、外国語版は約29%と著しく低かったため、特に外国版において今後は実施内容や周知方法を工夫して取り組みを継続していく。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	令和7年度は大阪・関西万博開催年であることなどから、それらに関するイベントや市外向けに日本語版はもちろん、積極的に外国語版(英語・中国語・韓国語版)の配布を行い、市のPRに取り組む。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　690

事務事業名称		ひらかた便利帳発行事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	広報・広聴・協働	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1978(S53)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	行政情報だけでなく医療機関の情報など本市で生活するうえで必要な様々な情報を知る手段がある。						
	対象者(受益者)	本市に暮らす市民、または転入を予定している・考えている人(約40万人)。						
	現状・課題	市役所の手続きやごみの出し方、まちの医療機関についてなど、生活するうえで知りたい情報が簡単かつ効率的に検索できる媒体がほしい。						
	事業の概要	市民などが行政情報や医療機関の情報を分かりやすく検索するための媒体。転入者に配布できるよう必要に応じ改訂版を発行するとともに、定期的な全戸配布を行っている。広告費用によりまかなっている事業であるため、財政面から増刷は行わず、新たな転入者へは二次元コードを記載したチラシを配布し、電子版へ誘導を行っている。 (次回、令和8年度全面改訂予定)						
	年間の主な事務	3年に1回、全面改訂のための全庁照会(例年7月～3月内で校正含む4回程度) ・記事作成(例年10月～4月) ・広告確認作業など(例年3月～4月) ※該当年度以外は在庫の管理 ・転入者用のチラシ増刷(2か月に1回程度)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.10人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	769	—	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	—	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	—	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	—	—	—		
歳出 人件費計	769	—	—	—		
歳出 物件費計	0	—	—	—	0	0.0%
歳出計	769	—	—	—		
歳入 国庫支出金	0	—	—	—	0	
歳入 府支出金	0	—	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0	
歳入 市債	0	—	—	—	0	
歳入 その他	0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ひらかた便利帳のあり方の検討。 発行する場合は改訂を行い、発行する(3年に1回)	冊	0 冊	ー 冊	ー 冊	ー 冊
② 転入者へ電子媒体に誘導するチラシを配布	冊	6,794 冊	ー 冊	ー 冊	ー 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 市民に全戸配布したうえで、転入者及び希望者などに対しても、ひらかた便利帳を配布する(電子版誘導チラシ含む)。

指標: ひらかた便利帳配布部数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7,000	7,000	195,000	7,000	部
実績	6,794	ー	ー	ー	部

算出方法: ひらかた便利帳配布部数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: ひらかた便利帳の存在を知って手に取り、使ってもらう。

指標: スマホアンケートの「ひらかた便利帳について」での回答全体から「使ったことがない」と答えた人を引いた数の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	75	80	85	%
実績	73.2	ー	ー	ー	%

算出方法: (全体ー「使ったことがない」と答えた人数)/スマホアンケート回答者数×100

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

行政情報だけでなく、医療機関の情報など本市で生活するうえで必要な様々な情報を知ることができ、満足度が向上する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	協働発行事業者からの提案を受け、公民連携で令和4年度に2023年版を作成し、令和6年度は5年度に引き続き転入者へ電子版案内チラシ(希望者へは紙冊子)を配布した。配布部数がわずかに目標値に達しなかったものの、約97%と概ね想定通りであった。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	行政情報だけでなく医療機関の情報など本市で生活するうえで必要な様々な情報を知る手段として、今後も転入者へ2023年版のチラシ配布を継続し、2026年版の発行に向けて紙面の再作成に取り組む。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　691

事務事業名称		シティプロモ―ション推進事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモ―ション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	観光・プロモ―ション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	―	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○			
	事業期間	事業開始：　R4年度(2022年度)　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　―						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民と行政との関わりを深めながら、共に市の魅力を発信することでまちに対する関心が高まり、その関心の高まりが市外在住者へと波及することで、市内外の幅広い人々に�方市に対する興味・関心を持たれる状態。また市の独自性や魅力(文化、歴史、自然、産業、施策、暮らしやすさなど)を効果的に発信し、市外での認知度を上げることで地域ブランドが確立され、「訪れたい」「住みたい」と思われる状態。						
	対象者(受益者)	①:�方市民、市内事業者、�方市と関わりのあるあらゆる世代の人たち ②:①を除く市外在住者						
	現状・課題	①:�方市への関心・興味が高くなく、市の魅力が伝わっていない。 ②:�方市に愛着や思い入れはあるが、まちに関する情報が届いていない。						
	事業の概要	シティプロモ―ションの推進全般に係る活動 (主なもの) ①�方市PR大使…�方市の魅力を情報発信していただき、イメ―ジアップ及び交流人口の拡大を図る。 ②ひこぼしくん…地域資源を活用したキャラクタ―を活用することにより、市全体のシティプロモ―ションの推進を図る。 ③�方市テ―マソング関連…歌を通して人のつながりや広がりをつくるとともに、映像を活用しながら�方市の魅力を発信する。 ④情報発信施策推進委員会アピ―ル企画…子育て世代が実際に感じた�方の魅力・強み(＝だからの理由)を市民の視点から紹介し発信する「だから、�方」など、同委員会の決定に基づく情報発信施策を実施し、市への認知度向上やブランディングを図る。 ⑤ひらかたプロデュ―サ―ズ・・・行政と市民が�方市のシティプロモ―ションを一緒に考えることで、協働のまちづくりの機運を高める。 ⑥インスタ隊・・・若手職員を中心に全職員から募集・結成し、若年層を中心とするインスタグラム利用者に市の魅力を効果的に伝える。						
	年間の主な事務	・PR大使の就任手続き、出演調整、発信してほしい情報の提供 ・ひこぼし公式Xの運用。 ・民間、行政への着ぐるみの貸出及びイラスト使用の承認手続き。(ひこぼしくん) ・ひこぼしくんのイベントへの参加。 ・市公式Youtubeを用いた動画配信 ・市公式SNS等での情報発信施策推進委員会アピ―ル企画の情報発信 ・シティプロモ―ション関連イベント出展 ・シティプロモ―ションサイト更新(年4回) ・シティプロモ―ション冊子の制作 ・ひらかたプロデュ―サ―ズの登録作業や関連事務 ・インスタグラムを用いた情報発信						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
人員体制	正職員	3.28人	―	―	―
	再任用	0.00人	―	―	―
	任期付職員	0.00人	―	―	―
	会計年度任用職員	0.00人	―	―	―
	特別職非常勤	0.00人	―	―	―
	附属機関委員	0.00人	―	―	―

決算額			（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額（参考）	予算執行率（参考）
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	25,217	—	—	—		
			会計年度任用職員	0	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		25,217	—	—	—		
		物件費計		6,625	—	—	—	6,433	103.0%
	歳出計			31,842	—	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
		府支出金		0	—	—	—	0	
		受益者負担（使用料・手数料）		0	—	—	—	0	
		市債		0	—	—	—	0	
		その他		72	—	—	—	100	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）			72	—	—	—	100	
	一般財源（物件費充当分のみ）			6,553	—	—	—	6,333	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① まちの愛着などにつながる枚方市PR大使やひらかたプロデューサーズ、地域との関連イベントなどの実施件数	件	21 件	— 件	— 件	— 件
② ひこぼしくんX公式アカウントでの発信数	件	16 件	— 件	— 件	— 件
③ 枚方市テーマソングなど枚方市の魅力発信となる動画制作数	本	209 本	— 本	— 本	— 本
④ 市の魅力発信のためのシティプロモーションサイトの更新回数。	回	4 回	— 回	— 回	— 回
⑤ インスタ隊の実績や計画を確認する会議の開催数	回	3 回	— 回	— 回	— 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：まちの愛着などにつながる枚方市PR大使や地域、枚方プロデューサーズとの取り組みが、より多くの人たちに枚方市の魅力が伝わる。

指標：枚方市PR大使やひらかたプロデューサーズ、地域との連携実績（自発的な活動含む）のうち、新聞、テレビなどメディアに取り上げられた件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	40	40	40	40	回
実績	21	—	—	—	回

算出方法：枚方市PR大使やひらかたプロデューサーズが地域との連携イベントなどがメディアに取り上げられた数

ロジックモデル

アウトプット②

説明：「ひこぼしくん」が民間のイベント等でも活用される。

指標：「ひこぼしくん」のイラスト及び着ぐるみの貸出件数（庁内外）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	件
実績	93	—	—	—	件

算出方法：「ひこぼしくん」のイラスト及び着ぐるみの貸出件数（庁内外）

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：取り組みが市内外に発信され枚方市に対する興味・関心を持つ。

指標：枚方市PR大使や地域との連携イベントに関わった人の総数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	20,000	22,000	24,000	26,000	人
実績	66,377	—	—	—	人

算出方法：イベント参加者などかかわった人数。（全庁的な利用含む）

アウトカム②

説明：取り組みがSNSなどで市内外に認知され、ひこぼしくんの興味・関心をもってもらい、認知度があがる。

指標：枚方の魅力をPRするひこぼしくん公式Xのフォロワー数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,500	1,600	1,700	1,800	人
実績	1,553	—	—	—	人

算出方法：ひこぼしくん公式Xのフォロワー数

ロジックモデル

アウトプット③

説明：テーマソングなどの市の動画を見ることにより、本市の魅力が伝わり共感する。

指標：Youtube枚方市チャンネルの動画の視聴回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	300,000	330,000	360,000	390,000	回
実績	318,662	—	—	—	回
算出方法	Youtube枚方市チャンネルの動画の視聴回数				

アウトカム③

説明：動画を通じて、枚方市に対する興味・関心を持つ。

指標：Youtube枚方市チャンネル登録者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10,000	11,000	12,000	13,000	人
実績	11,300	—	—	—	人
算出方法	Youtube枚方市チャンネル登録者数				

ロジックモデル

アウトプット④

説明：「だから、枚方」など情報発信施策推進委員会アピール企画の情報発信を行い、市への認知度向上やブランディングを図る。

指標：シティプロモーションサイト（情報発信効果の最終遷移先）へのアクセス数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	63,000	65,000	67,000	69,000	回
実績	62,947	—	—	—	回
算出方法	Web解析ツールでのアクセス数				

アウトカム④

説明：情報発信施策推進委員会アピール企画を通じて市に対する興味・関心を持つ。

指標：転入者アンケート等での情報発信施策推進委員会アピール企画を認知している人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	5	10	15	20	%
実績	7.6	—	—	—	%
算出方法	転入者アンケート等における、情報発信施策推進委員会アピール企画を認知している回答者数 / 全回答者数 × 100				

ロジックモデル

アウトプット⑤

説明：インスタグラムを活用し、市内名所や飲食店などの生活に身近なものを中心に、写真・動画で発信することで、幅広い世代に本市の魅力が伝わる。

指標：インスタグラム投稿数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	60	66	72	79	件
実績	69	—	—	—	件
算出方法	当該年度のインスタグラム投稿数				

アウトカム⑤

説明：投稿を通じて、枚方市に対する興味・関心を持つ。

指標：インスタグラムフォロワー数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10,400	11,400	12,500	13,700	人
実績	11,061	—	—	—	人
算出方法	インスタグラムフォロワー数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市の認知度向上とともに市への愛着が強化される。また行政と市民が枚方市のシティプロモーションを一緒に考えることで、市民自身が地域活性化の主体として参加する意識を高め、自らプロモーションの担い手となるようなシビックプライドを高める。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	市政アピールとして、子育て世代への「だから、枚方」プロモーションを活発に行い、シティプロモーションサイト・インスタグラム広告・京阪電鉄沿線での広告展開などを通じ、市民を起用し率直な声を紹介することで、市の認知度向上とブランディングを図った。これらの取り組みにより、シティプロモーションサイトへのアクセス数は概ね想定通りの達成率であり、市のアピール企画の認知度については目標達成率150%であった。また、PR大使も出演した市民参加型の「この歌が好き！枚方カラオケフェスティバル」など、まちの愛着につながるイベントを積極的に実施したことで、アウトプット指標であるメディアに取り上げられた件数は目標に届かなかったが、アウトカム指標であるイベントに関わった人数は約332%の達成率であった。「ひこぼしくん」による市の魅力発信では、七夕イベントなどに積極的に参加し、公式Xで情報発信を実施したことによって、着ぐるみの貸し出し件数及びフォロワー数は概ね想定通りのの目標達成率であった。動画制作では、鹿児島県日置市の小学生とコラボした市テーマソングの動画や、PR大使を活用した「あたりまえ”けんしん”」など市の魅力発信に努め、視聴回数やチャンネル登録者数ともに目標を達成した。インスタグラムを活用した取り組みでは、インスタ隊による写真・動画を用いた市の魅力発信を積極的に展開することで、投稿数、フォロワー数ともに目標を達成した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R7年度 取組方針	大阪・関西万博開催の絶好の機会を逃すことなく、全庁一丸となった市政アピールとして「だから、枚方」をキャッチフレーズに子育て世代をターゲットにしたシティプロモーションを市内外へ戦略的に展開し、住宅展示場やイベントでの市政情報チラシ等の配布や、市内でのPBL（問題解決型学習）など特色のある教育・子育て施策の情報発信などに、他課や民間企業と連携しながら取り組む。また、昨年度実施したプロモーション施策を分析し、広告等を活用しながらプロモーションサイトとの連携を図るとともに、動画制作会社と連携した職員研修を行い、動画によるプロモーションを強化する。	R7年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持 ▶	**現状維持** ▶	ー ▶	ー ▶	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　800

事務事業名称		ふるさと寄附金推進事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモーション課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	31.持続可能な行財政運営を進めます				性質	観光・プロモーション	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○			
	事業期間	事業開始：　2016(H28)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	(個人版ふるさと納税) 様々な事情で地元を離れざるを得なくなった方も、愛着のある地元へふるさと寄附を通して応援、地域貢献を行うことで繋がりができ、シビックプライドの醸成へつながっている状態。 (企業版ふるさと納税) 枚方市外に本社を置く企業が、本市の取り組みに対して企業版ふるさと納税制度を活用して応援、地域貢献を行うことで繋がりができ、新たな事業連携や協力体制が構築されている状態。						
	対象者(受益者)	(個人版ふるさと納税) 現在市外に住んでいる枚方出身者や枚方にゆかりのある方。 枚方市の返礼品や事業に興味がある方。 (企業版ふるさと納税) 市外に本社を有する企業で、既に枚方市と関わりがある企業。 市外に本社を有する企業で企業版ふるさと納税制度を活用する意向はあるが枚方市と関わりのない企業。						
	現状・課題	(個人版ふるさと納税) 枚方市に愛着や思い入れがあるにも関わらず、遠方に住んでいることで故郷との関係性が薄くなっている。 (企業版ふるさと納税) 企業版ふるさと納税の制度やメリットを知らない、どのような事業に寄附できるか分からないことなどを理由に、枚方市への寄附がなされない。 枚方市への縁がないため枚方市を寄附対象とする決め手に欠ける、市がどのような事業をしているのか分からず企業PRにつながるか判断ができないことなどを理由に枚方市への寄附がなされない。						
	事業の概要	(個人版ふるさと納税) 枚方市へふるさと納税の制度を活用して寄附をしていただけるよう、専門ポータルサイトと契約を行い、管理業務を行う。また、返礼品の開発審査や新たな返礼品協力事業者の開拓を行い、幅広く本市の魅力や情報の発信を行う。 寄附金については、寄附者の意向に沿った活用となるよう各ふるさと寄附金基金担当課と調整連携を行う。 (企業版ふるさと納税) 枚方市に本社のない企業が、企業版ふるさと納税制度を活用し市に寄附をしていただけるよう、企業への案内通知や訪問などによる働きかけなど、社会貢献意識の訴求につながる寄附対象事業の紹介を行う。また、企業とのマッチングを行う委託事業者との契約や専門ポータルサイトの管理により、枚方市と関わりのない企業への情報発信、寄附の働きかけも行う。						
	年間の主な事務	(個人版ふるさと納税) ・ふるさと寄附金基金担当課、関係課及び返礼品協力事業者との連絡・調整 ・返礼品の開発審査及び決定・返礼品協力事業者の開拓、審査及び決定等 ・業務委託事業者の調査、契約事務 ・ふるさと納税専門ポータルサイトの管理 ・寄附受け入れに関する定例事務 ・ふるさと寄附金を通じた魅力の発信 (企業版ふるさと納税) ・対象企業への訪問・案内送付・電話などによる働きかけ ・寄附金受領手続き及び寄附事業者との連絡・調整 ・業務委託事業者の調査、契約事務 ・企業版ふるさと納税専門ポータルサイトの管理 ・寄附対象事業の紹介などを含む情報発信 ・国への事業報告などを含む照会回答業務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	3.30人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.20人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	5.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	25,370	—	—	—		
		会計年度任用職員	355	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	190	—	—	—		
	人件費計		25,915	—	—	—		
	物件費計		136,373	—	—	—	177,743	76.7%
歳出計			162,288	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			136,373	—	—	—	177,743	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 個人版ふるさと寄附に関する情報発信数(プレスリリース、外部メディアへの掲載)	回	23 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 個人版ふるさと寄附に関する新規返礼品の追加	品	62 品	ー 品	ー 品	ー 品
③ 企業版ふるさと納税の対象となる企業への働きかけの回数(電話勧奨＋案内通知＋直接訪問の合計数。同一企業へ異なる手段で働きかけた場合はそれぞれ1回として数える※会社Aへ電話勧奨のうえ訪問した場合は2回)	回	115 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル アウトプット①

説明: 枚方市へ個人版ふるさと寄附がなされる。

指標: 枚方市へのふるさと寄附件数(ふるさと納税ポータルサイト利用分)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	9,700	10,600	11,600	12,700	件
実績	10,053	—	—	—	件

算出方法: 当該年度に受け入れた寄附の件数

ロジックモデル アウトプット②

説明: 働きかけによりつながりのできた、枚方市の事業に賛同、共感いただいた企業から、企業版ふるさと納税を通じて寄附がなされる。

指標: 枚方市への企業版ふるさと納税の寄附件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	13	17	21	25	件
実績	18	—	—	—	件

算出方法: 当該年度に受け入れた寄附の件数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 枚方市へ個人版ふるさと納税を活用した寄附がなされ、市の事業実施のための財源が確保されている。

指標: 枚方市へのふるさと寄附増加金額(ふるさと納税ポータルサイト利用分)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	150,000	150,000	150,000	150,000	千円
実績	78,064	—	—	—	千円

算出方法: 前年度から増加した寄附受入額

アウトカム②

説明: 枚方市へ企業版ふるさと納税を活用した寄附がなされ、市の事業実施のための財源が確保されている。

指標: 枚方市への企業版ふるさと寄附増加金額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	5,000	5,000	5,000	5,000	千円
実績	4,389	—	—	—	千円

算出方法: 前年度から増加した寄附受入額

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

（個人版ふるさと納税）
魅力的な返礼品の開発や、ふるさと納税を活用できる事業の内容を広く情報発信することで、新規顧客の獲得だけでなくリピ―ター―の確保に繋げ、安定した財源確保がなされている状態。
（企業版ふるさと納税）
企業版ふるさと納税制度を活用し、企業への働きかけにより新たに寄附意向を持った企業だけでなく、協力体制を構築できた寄附実績のある企業からも継続的な寄附がなされ、安定した財源確保がなされている状態。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	（個人版ふるさと納税） 寄附件数及び寄附金額共に前年度を上回ったが、寄附金額については目標数値には到達せず、市外への流出額との差し引きではマイナスとなっている。引き続き、新たな返礼品の開拓やプロモーション活動の手法見直しなど、寄附金額の増加に向けた取り組みが必要。 （企業版ふるさと納税） 寄附件数及び寄附金額共に前年度を上回ったが、寄付金額については目標数値には到達しなかった。引き続き、企業へのアプローチやポータルサイトを活用した寄附金額の増加に向けた取り組みが必要。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R7年度 取組方針	（個人版ふるさと納税） 新たな返礼品の開拓やより効果的なプロモーション活動を実施していくため、中間管理業務の委託範囲拡大やクラウドファンディングを検討し、寄附金額の増加に向けた取り組みを進める。 （企業版ふるさと納税） 過去に寄附をいただいた企業への再度のアプローチや、ポータルサイトへ事業を掲載することで遠方の企業に対してアプローチするなど、寄付金額増加に向け、より効果的な企業への働きかけを実施する。	R7年度 方向性	**拡充**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	**拡充**	**ー**	**ー**	**ー**

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　847

事務事業名称		広報プロモ―ション課運営事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　市長公室		課:　広報プロモ―ション課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規程						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	広報プロモ―ション課の運営が円滑に出来ている状態。						
	対象者(受益者)	広報プロモ―ション課職員・職場。						
	現状・課題	広報プロモ―ション課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	市議会に関する連絡調整。災害時における情報の市ホ―ムペ―ジ掲載、報道機関への連絡など広報活動。庁内外への照会・回答処理。財務・会計・契約・文書管理。北河内7市で構成する北河内広報連絡協議会の運営事務等。						
	年間の主な事務	・市議会に関する連絡調整(発生都度)。 ・災害時における情報の市ホ―ムペ―ジ掲載、報道機関への連絡など広報活動(発生都度)。 ・庁内外への照会・回答処理(通年)。 ・財務・会計・契約・文書管理(発生都度)。 ・北河内7市で構成する北河内広報連絡協議会の運営事務等(発生都度)。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.85人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.10人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,535	—	—	—		
		会計年度任用職員	178	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		6,713	—	—	—		
	物件費計		20,195	—	—	—	50,491	40.0%
歳出計			26,908	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		19,803	—	—	—	50,001	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			19,803	—	—	—	50,001	
一般財源(物件費充当分のみ)			392	—	—	—	490	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①			―	―	―

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	課内で情報の共有を図り、必要な事務を滞りなく実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、課内での情報共有を図り、滞りなく事務の遂行に努める。	R7年度方向性	現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
		現状維持	現状維持	―	―	―